

中建国保加入者を “がんで死なせない” ために

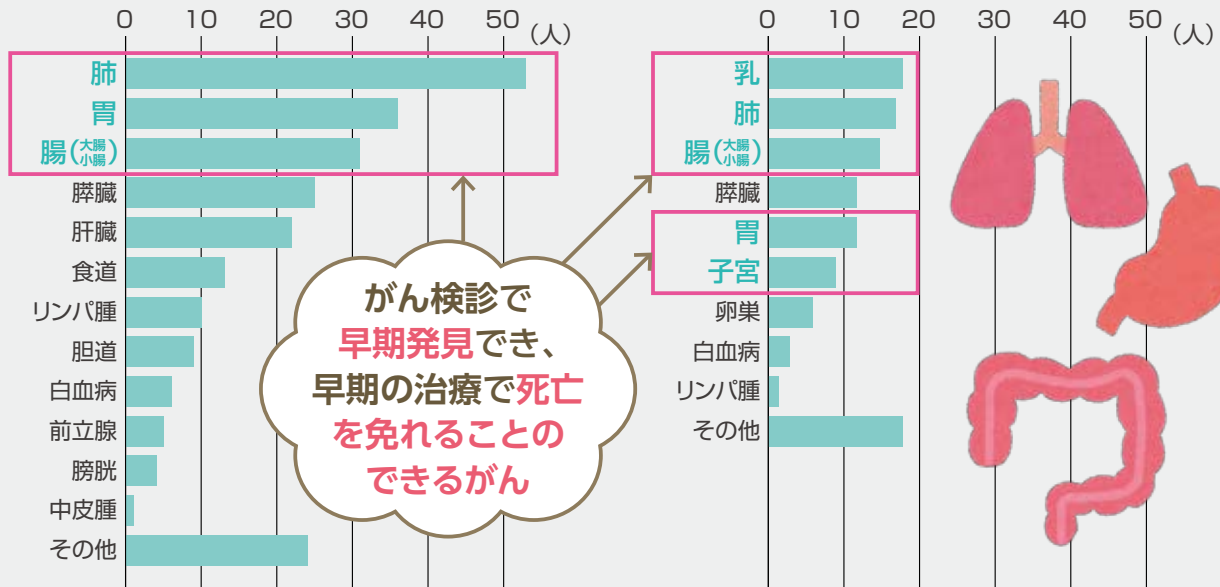


えいじゆう のぞみ
保健師/永住 希

表1 がんの部位別死亡数 (平成29年度)

男性 **239**人

女性 **113**人



がん検診で
早期発見でき、
早期の治療で死亡
を免れることの
できるがん

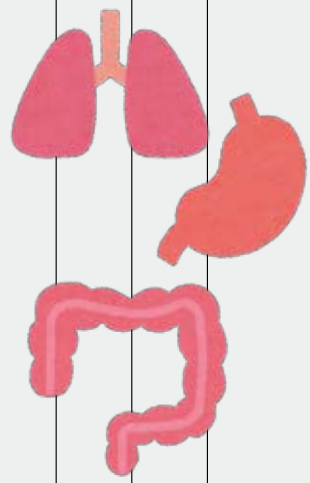


表1は、平成29年度に「がん」が原因で死亡した中建国保の加入者352人(男性239人、女性113人)の、部位別の死亡原因を示したものです。

男性は多い順に肺がん、胃がん、腸がん(大腸、小腸)、女性は乳がん、肺がん、腸がん(大腸、小腸)となっています。

がんは、医学の進歩により、適切に検診を受けることで早期に発見でき、早期に治療することで死亡を免れることができる疾患の1つとなっています。

特に、早期発見・治療に効果が高い「がん検診」として、国が推奨している「肺がん」「胃がん」「大腸がん」「乳がん」「子宮がん」の5つのがん検診は、中建国保のがん死亡者の上位を占めているがんになっており、がんで亡くなる人を減らすためには検診受診率向上は重要なことと言えます。

がん検診は、対象年齢によってはお住まいの市町村の補助で受けることができますが、中建国保でも年度内に2000円までの補助をおこなっています。また、今年度から節目年齢の方に人間ドック受診の補助もおこなっています。

がんで亡くなる人を減らすことにつながるがん検診。今後も、中建国保に加入されている方が、がん検診を受ける機会を得られるような情報提供や体制づくりへのご協力をお願いいたします。

※対象年齢等の詳細は、中建国保の便利帳をご覧ください。